

# 道徳の時間学習指導案

北広島町立新庄小学校 指導者 尾崎 恵

- 1 日 時 平成26年10月24日（金） 第2校時
- 2 学 年 第1学年 6名
- 3 主題名 いつも正直に【内容項目1－（4）「正直・明朗」】
- 4 資料名 「どんぐり」（出典：「どうとく① みんな なかよく」東京書籍）
- 5 主題設定の理由

○ 本主題は、内容項目の1「主として自分自身に関すること」の（4）「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。」にあたる。うそやごまかしをすることなく伸び伸びと明るく生活することは、自分自身だけでなく、周りの者にとっても気持ちのよいものであり、他者との信頼関係を築く上でも重要である。この時期の児童は、うそやごまかしはいけないことだと知っている。学校生活にも慣れ、行動範囲や遊びも広がる中、失敗や行動を叱られたり笑われたりすることから逃れようとするあまり、したことをごまかしたり、うそをついたりする姿は、低学年のこの時期にありがちである。いけないことをしてしまった時にはその非を素直に認め、あやまることができるようにするとともに、人が失敗しても責めたり笑ったりしないようにし、正直に伸び伸びと生活しようとする態度も養うことが求められる。

○ 本学級の児童は、6名中5名が同じ保育所からの入学で、お互いをよく知っているため、入学当初より共に誘い合い仲よく遊んでおり、困ったことや失敗を正直に話して素直に伸び伸びと生活している。もめ事があった場面で話を聞くと、うそやごまかしをすることなく素直に状況や思いを話して解決する姿も見られる。一方で、自分に非のあることを正直に話さないで黙っていたり、ごまかしたりする児童もいる。その場しのぎのうそやごまかしが、相手の信頼を失ったり、自分が暗い心になったりして、伸び伸びと生活できなくなると考えるまでには至っていない。

道徳の時間の学習では、思ったことや感じたことをよく発言している。「〇〇さんと同じで」「〇〇さんと似ていて」と、前の発言をつないだ発言ができる児童もいる。自分の考えを発表したり友達の考えを聴いたりしながら考え、物事の見方が深まることに喜びを感じている児童もいる。一方、単に資料の話を聴く事の方が楽しいと感じ、登場人物と自分を重ね合わせながら考えることができにくい児童もいる。

○ 本資料は、主人公「ようすけ」が下校途中でどんぐりを拾って帰宅が遅くなったことをごまかそうと、母にうそを2回もつくという内容である。「ようすけ」は、帰宅が遅くなったことで「むねがどきどき」し、いけないことをしてしまったと認識している。母に謝りつつも、帰宅が遅くなった理由を正直に話さずうそをつく。資料は、主人公が1つ目のうそを正当化するために2つ目のうそをついてしまい、「さっきよりもっと胸がどきどきした」場面で終わる。主人公が思わず言ってしまったことをごまかすために2つ目のうそをついた時の心情を考えさせることで、素直に伸び伸びと生活することの気持ちよさに気付かせることができる資料である。

指導にあたっては、下校途中に寄り道をする場面を押さえた後、主人公のどんぐり拾いに夢中になる気持ちに共感させる。児童も葛藤しながら心情に迫れるよう板書を工夫し、ようすけの葛藤をキーワードで対比的に表したり、心情の変化をカードで示したりする。中心発問では、「よう

すけ」の心情を引き出すために、児童に動作化をさせる。展開後段では、ねらいに迫るためにワークシートを活用して主人公のその後の行動について考えさせていく。

## 6 研究内容との関連

自己との対話を深めるための工夫	他者との対話を深めるための工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板書に、心情グラフを使って「ようすけ」のどきどきする気持ちを視覚的に提示し、気持ちの変化を感じ取らせる。</li> <li>・ 中心発問で児童に動作化をさせ、「ようすけ」の「むねがもっともっとどきどきした」心情を体感させてから発言を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心発問後は、自分の意見と友達の意見の相違について考えさせ、発言をつなげさせていく。</li> <li>・ 児童に葛藤が生まれるような補助発問をし、「正直に言った方がいいわけ」を話し合わせることで、意見を引き出して他者との対話をさせる。</li> </ul>


## 7 本時の展開

### (1) ねらい

あわてて嘘をつき胸がどきどきした「ようすけ」の気持ちを考えることを通して、うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする心情を養う。

### (2) 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問（○と◎）と予想される児童の反応（・）	指導上の留意点☆及び評価★（方法）
導入	1 どんぐり拾いの話をする。	○どんぐり拾いに、行ったことがありますか。 ・あります。 ・ちょっとしかとれなかったけど、たのしかったです。 ・どんぐりをとって、こまをつくったことがあります。	☆楽しかったことを想起させる。
展開前段	2 資料を読んで、ようすけの気持ちを考える。	○むちゅうで拾うって、どんな気持ちだったのかな。 ・たのしくてじかんをわすれるきもち。 ・もっといっぱいひろいたい。 ・どんぐりでこまをつりたいな。  ○そっと玄関の戸を開けた時、ようすけくんは、どんな気持ちだったのかな。 ・むねがどきどきした。 ・かえりがおそくなっちゃったな。どうしよう。 ・おかあさんに、おこられるかな。いやだなあ。 ・よりみちしてはいけないいきまりなのに、やぶったからおこられるな。いやだなあ。  ○2回もうそをついたのはどうしてかな。 ・1かいめのうそがばれるのがいやだったから。 ・うそがばれて、おかあさんにおこられるのがいやだから。	☆寄り道はいけないことであること、楽しくて時間を忘れていた様子を押さえる。 ☆いつものように大きな声で「ただいま」が言えないことを押さえる。 ☆心情グラフを使い、どきどきした気持ちを視覚化する。 ☆うそを塗り重ねていることを押さえる。

	<p>◎「さっきよりもっともっとむねがどきどきした」のは、どうしてかな。</p> <p><b>予想される児童の反応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ばれなかったら、だまっていよう。(行動の正当化)</li> <li>・おこられるのいやだなあ。(怒られることへの嫌悪)</li> <li>・2かいもうそをついたから、いまさらしょうじきにいえない。(行動へのとまどい)</li> <li>・はじめからしょうじきにいえばよかったな。(行動への後悔)</li> <li>・うそをつくとどきどきしていやだな。(行動への嫌悪)</li> <li>・いまからでもしょうじきにいったほうがいいかな。(過ちを乗り越えようとする心)</li> </ul>	<p>☆ようすけの行動を動作化させ、心情を引き出すようにする。</p> <p><b>動作化による対話の設定</b> 主人公の気持ちにより深く共感させ、自分の考えをもたせる。</p> <p>☆児童の意見を類型化して板書し、比較できるようにする。</p>
	 <p><b>補助発問</b></p> <p>正直に言うと、お母さんにすごく怒られて、嫌な気持ちになるかもしれないよ。それでも、正直に言ったほうがいいのかな。</p> <p><b>価値に気付いた姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うそをつくとこころがいやなきもちになるから、しょうじきにいったほうがいい。</li> <li>・あやまらなくてはならないことはあやまる。</li> <li>・おこられてもしょうじきにいったほうが、こころがすっきりしていきもちになる。</li> </ul>	<p><b>補助発問による対話の設定</b> 価値についてさらに深く考える視点をもたせ、友達の意見と共通点や相違点を考えながら対話させる。</p>
<p>展開後段</p>	<p>3 自分だったらどうするか考える。</p> <p>○自分だったら、この後どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直に謝る。</li> <li>・「うそをついてごめんなさい」っていう。</li> <li>・うそをつくとこころがくるしいからあやまる。</li> <li>・うそをつくと、こころがいやなきもちになるから、しょうじきにいう。</li> </ul> <p><b>ワークシート</b> 自分の考えを書くことで、理由をつけて発表できるようにする。</p>	<p>☆ワークシートにその後の行動を書かせてから発表させる。理由を引き出すようにする。</p> <p>★うそをつかないで伸び伸びと生活しようと考えているか。(ワークシート、発言)</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○先生にも、今日のようにすけのような経験があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うそをついたら、ずっとこころにのこるんだな。</li> <li>・うそをつかないでせいかつしていこう。</li> </ul>	<p>☆指導者が小学生の時の話をし、これからの生活に展望をもたせて終わる。</p>

8 板書計画

さつきよりもっともっともつとむねがどきどきしたのは どうしてかな。

さつきよりもっともっともつとむねがどきどきしても、しょうじきにきこいっつと がたいせつ。

・おこられる。  
・おかあさんは、うそにきづいていないから、だまっていよう。  
・うそをついてくるしいな。  
・やっぱり、しょうじきに いおう。

場面絵

よりみち  
どんぐり  
どんぐり  
むちゅう  
どんぐりひろい

むねがどきどき

場面絵

ごめんなさい。  
こうじくんと学校であそんでいたんだ。  
先生も、いいっていったんだよ。  
こうじくんがくれたんだよ

たのしい。  
どんぐりがいっぱいある。  
いっぱいとりたいたい。

おかあさん、おこっているかな。  
おこられるのはいやだな。

9 準備物

場面絵、短冊、ワークシート

10 めざす児童の言葉（道徳ノートの見取り）

- ようすけは、しょうじきに いえば よかったのにな。
- しかられても、しょうじきに にいうことがたいせつだな。
- まえ、うそをついてどきどきしたことがあった。しょうじきに いいたい。
- いけないことをしたら、しょうじきにごめんなさいというぞ。

**道徳ノート**  
家庭で、授業について振り返って書かせることで、価値について自覚を深められるようにする。

新庄小学校では「対話の生まれる道徳の時間の授業づくり」について研究しています。設定した言語活動（発表、ワークシート、道徳ノート）を通して、自己の心情や判断など表現する機会を設け、道徳的価値の自覚を深めていくようにしています。